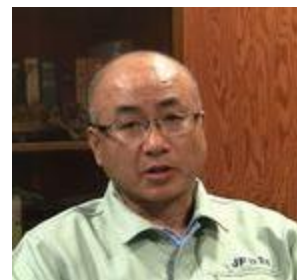


日生町漁業協同組合 専務理事 天倉辰己

プロフィール

1961年岡山県備前市日生町生まれ 1984年日生町漁業協同組合に入所し、主に販売業務に携わる。1985年アマモ場再生活動当初より参加し、2009年日生藻場造成推進協議会事務長を兼務する。2012年日生町漁業協同組合専務理事に就任。現在に至る。



1. 日生町漁業協同組合の概要

岡山県備前市日生町は、岡山県の南東、兵庫県との県境に位置し本土と大小13の日生諸島からなっています。温暖な気候に恵まれ観光地としても人気があります。「日生千軒漁師町」と呼ばれ古くから漁業の盛んな地域です。現在正組合員75名、漁船漁業では壺網（小型定置網）、小型底曳網、流瀬網（刺し網）が中心に営まれ、養殖漁業ではカキ養殖漁業が営まれています。カキ養殖業は岡山県下でトップクラス、年間水揚げ量1600t（むき身）、全国的にも有名な「日生かき」の産地です。又、漁業者が獲った魚介類を直接販売する直販所「五味の市」は、岡山県内、京阪神から年間約40万人の皆様にご利用頂いています。

2. アマモ場再生活動のきっかけ

昭和60年（1985年）沿岸部を中心に漁業を営む壺網（小型定置網）の漁業者が漁獲不振について原因を考えたところ一時期は航行の妨げになり邪魔者扱いされていたアマモが海岸から姿を消していました。当時の壺網代表者（前組合長）本田和士氏は岡山県のアマモ場造成研究に注目し繁茂適地を調査したところ鹿久居島周辺が過去にアマモの大繁茂地であり、わずかながらアマモが自生していることが確認されたので岡山県の指導を受けながら壺網漁業者19名を束ね青年部12名がサポートし、アマモ場を取り戻そうと活動の1歩を踏み出した。

3. アマモ場再生活動について「継続は力なり」

活動の内容は、繁茂期の6月にアマモの花枝を採取し、採取した花枝を袋に詰めて10月初旬までかき養殖筏を利用した保管筏に吊るしておき10月初旬に袋を引き揚げ海水を使用し比重選別を行い良質の種を造成予定の場所に播種します。活動当初は他の漁業者からお金にもならないのに何になるのかと非難を浴びながらも毎年コツコツと活動を続けてきました。環境の変化でまるで生えない年もありました。再生が進まない原因として底質に注目し底質改良材としてかき殻を利用した結果2008年頃から徐々に成果が見え始めました。又、壺網漁業者の減少に伴い2009年より日生藻場造成推進協議会（漁業者とその後継者総勢83名）を組織し活動を継続しています。2010年夏猛暑が続く主力漁業であるかき養殖は斃死による減産を覚悟していましたが裏腹に豊作の年となりました。要因としてアマモ場拡大により高水温であっても海中の溶存酸素によりなんとか生存できる環境であったのではないかと実感し活動がより活発化した。2019年には約250ha以上、最盛期の四割まで回復しました。



1945年頃 590ha



1985年 12ha



2019年 250ha

4. 続ければ繋がる

2012年、各々の役割に応じて連携しアマモ場造成活動を行い、瀬戸内海の環境保全を推進する目的でおかやまコープ（地元消費者団体）、NPO法人里海づくり研究会、岡山県及び日生町漁業協同組合で4者協定を締結し、コープ組合員さんの活動参加、アマモ再生活動DVD「海のゆりかごアマモの恵み」を作成し環境学習の教材として岡山県内の小学校に配布しました。又、アマモ場が順調に回復している中、贅沢な事ですが5月中旬から6月中旬にかけて花枝が流れ藻となり航行の妨げになるだけではなく造成目的でない沿岸域に漂着し港湾内にアマモ場が広がっており環境問題を重視し活動を続けて来ましたが一般住民の皆さんに迷惑を掛けている状況となっています。そこで対策として流れ藻花枝の回収を試みる事にし、かき養殖体験を実施している地元の日生中学校と活動を行いました。日生中学校は海洋学習を通じ体験だけではなく、聞き書きを行い自然と人との繋がりや、自分達がどの様に日生の応援団になれるのか等を話し合っています。様々な繋がりを経て2016年には全国アマモサミット2016in備前開催や、海洋立国功労者表彰の授与等で全国的にアマモ場再生活動発祥の地として知名度が上がりました。

5. 目指せ持続可能な里海づくり～私達の約束～

アマモ再生活動を始め35年になりました。これまでご指導、ご協力頂いた皆様方に深く感謝いたします。又、里海の理念からも人が自然に対し少しずつ恩返しをして行けば循環可能な漁業が実現できそうな気がします。活動を持続するためにも海の守人である漁業者が中心となり次世代へ伝えて行く事が重要ではないでしょうか。



日生中学校流れ藻回収



日生中学校聞き書き



2010年6月漁業者による流れ藻回収、漂流ゴミ回収